

心のバリアフリー推進のためのモデル検討調査事業

公共交通機関等におけるシームレスな移動支援の実現に向けた

参加型バリアフリー教室

報告書

2024年3月13日



公益財団法人
日本ケアフィット共育機構

そっと、さっと、あんしんを。



公益財団法人
日本ケアフィット共育機構

そっと、さっと、あんしんを。

私たち日本ケアフィット共育機構が
実現したい世界・理想の社会

誰もが誰かのために、
共に生きる社会

私たち日本ケアフィット共育機構の 社会における使命・役割

あらゆる場面で、「ケア」を「フィット」する



自分の命を守り、大切な人の命を守る

防災介助士



知る



守る



助ける



そっと、さっと、あんしんを

サービス介助士



おもてなしの心



正しい介助技術



サービス介助士



認知症の人に寄り添う

認知症介助士

正しい知識



おもてなしの心

寄り添う



誰に対しても思いやりの大切さを学ぶ

おもたわ

困りごとに気づいて動く
違いを認め合い、相手の立場になって考える



ヒトへの
“ケアフィット”
-共に育む



車イスの車イスによる車イスのためのイベント
バリアフル
社会モデル体感イベント



INCLUSIVE
COMMUNICATOR



モノへの
“ケアフィット”
-場を作る



障害者就労支援事業所
CAREFIT FARM



LABO
INCLUSIVE
TRANSFORMATION



コトへの
“ケアフィット”
-実践する



イベントに参加する
すべての人々が
感動を共有できる
環境のために



TASKAL
Relation Center
「困った」を「助かる」へ

Our Purpose

- ・ 私たちの社会的な存在意義
- ・ 共生社会を目指す理由

誰しも個性や自分らしさがあります。
その個性や自分らしさをありのまま自由に振る舞えるよう生きていきたい。
しかし、受け身ではそれを手にいれることはできません。
みずから自分を取り巻くあらゆるものに働きかける必要があると思うのです。

自分を取り巻くもの、その中で一番大切なのが、相手です。
自分が個性や自分らしさを大切にしているように、
相手だってとても大切にしているはずなのです。
お互いがお互いをともに認め合う、ともに助け合う。
そうすることで、はじめて、
自分の個性や自分らしさを自由に振る舞えるようになります。

私たちは、お互いがともに認め合い助け合うことで
一人ひとりが大切にしている個性や自分らしさを活かせると考えています。
そして、ともにお互いに働きかけるからこそ、
自分の個性や自分らしさを大切に作る輪が広く世の中に広がっていくと考えています。

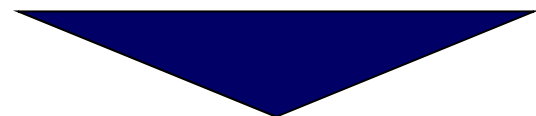
ともにありのままを生きる



おもてなしの心



正しい介助技術



サービス介助士



1000法人 22万人のサービス介助士が全国で活躍中



■実施目的

移動支援が必要な方が、他の公共交通機関等へ移動する際に施設の職員等による移動支援が途切れてしまう場合がある。今回の「心のバリアフリー推進のためのモデル検討調査事業」では、東急電鉄株式会社のご協力の下、改札外の広場を活用した参加型バリアフリー教室等を行い、施設の職員等だけでなく、他の利用者によるシームレスな移動支援が広く一般に広がるよう、心のバリアフリー推進のための普及啓発等を実施した。

■実施概要

タイトル：心のバリアフリー教室@東急電鉄二子玉川駅

日程：2024年2月22日木曜日

会場：東急電鉄二子玉川駅構内

対象：一般市民

募集方法：webによる事前申込み

参加費：無料

選考方法：先着順

広報：駅構内ポスター、町内掲示板掲示、チラシ配布（新聞折込）、ニュースリリース
地域の大学・専門学校・社協・民生委員等の集客協力

開催方法：1回最大12名/50分、5回開催
(10:00~、11:00~、13:00~、14:00~、15:00~)

主催：公益財団法人日本ケアフィット共育機構

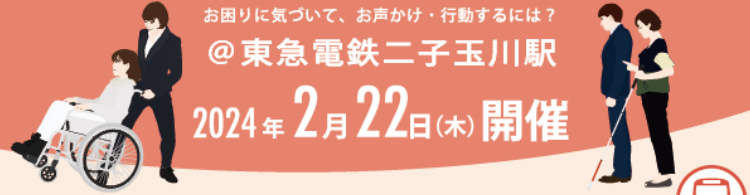
協力：東急電鉄株式会社



(シームレスな移動支援のイメージ)



あなたにもできるサポートがたくさんあります 心のバリアフリー教室



お困りに気づいて、お声かけ・行動するには？
@ 東急電鉄二子玉川駅
2024年2月22日(木)開催

例えば、車いすや白杖を利用している方が、電車からバスに乗り換える際、駅構内では鉄道会社の方、バスの車内では運転手さんのサポートを受けることができます。しかし、その間の移動はお手伝いが必要な場合があります。そんなとき、それに気がつき行動できるみなさまが必要になります。



学べること

お困りの方を見かけたとき、自信を持ってお声かけ・サポートができるようになります！

- 障害は、社会のつくりや仕組みが原因という考え方を知る
- 車いす使用者・視覚に障害のある人への接遇やサポート(実技あり)

開催概要

会場 東急電鉄二子玉川駅構内
日程 2024年2月22日(木)
時間 ①10:00～
②11:00～ 1回50分
③13:00～ 各定員12名
④14:00～
⑤15:00～
主催 公益財団法人日本ケアフィット共育機構
電話：0120-0610-64 e-mail: toiwase@carefit.org
協力 東急電鉄株式会社、株式会社サンビーム
※天災等でイベントを中止する場合があります。その場合、当日8時までにメールにてご連絡します。

どなたでも無料でご参加いただけます

参加お申し込み

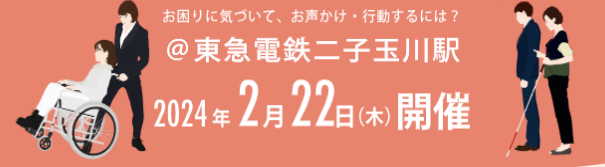
公益財団法人
日本ケアフィット共育機構

<https://www.carefit.org/bfm/>



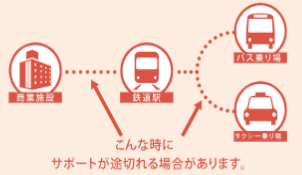
ポスターデザイン B1サイズ (横728mm×縦1030mm)
フライヤーチラシA4サイズ (横210mm×縦297mm)
東急電鉄駅構内ポスター掲示
二子玉川周辺チラシ新聞折込、地域の掲示板掲示

あなたにもできるサポートがたくさんあります 心のバリアフリー教室



お困りに気づいて、お声かけ・行動するには？
@ 東急電鉄二子玉川駅
2024年2月22日(木)開催

例えば、車いすや白杖を利用している方が、電車からバスに乗り換える際、駅構内では鉄道会社の方、バスの車内では運転手さんのサポートを受けることができます。しかし、その間の移動はお手伝いが必要な場合があります。そんなとき、それに気がつき行動できるみなさまが必要になります。



学べること

お困りの方を見かけたとき、自信を持ってお声かけ・サポートができるようになります！

- 障害は、社会のつくりや仕組みが原因という考え方を知る
- 車いす使用者・視覚に障害のある人への接遇やサポートカリキュラム

シームレスな移動とは…障害当事者に聞く移動における困りごとは？「障害」の捉え方、社会に存在する「障害」
多様な人への接遇とは…障害者が活躍する社会のバリア、コミュニケーションのポイント、介助の実践と実習
偏見取りと共生…シームレスな移動の課題と意識の共有、明日への行動宣言

開催概要

会場 東急電鉄二子玉川駅構内
日程 2024年2月22日(木)
時間 ①10:00～
②11:00～ 1回50分
③13:00～ 各定員12名
④14:00～
⑤15:00～
主催 公益財団法人日本ケアフィット共育機構
電話：0120-0610-64 e-mail: toiwase@carefit.org
協力 東急電鉄株式会社、株式会社サンビーム
※天災等でイベントを中止する場合があります。その場合、当日8時までにメールにてご連絡します。

どなたでも無料でご参加いただけます!!

お申し込み >



専用案内ページwebサイト
URL：https://www.carefit.org/bfm/

■修了証 A 4 サイズ (横210mm×縦297mm)

オリジナルクリアファイル入り

参加者全員に氏名入りの修了証をお渡しした



心のバリアフリー教室
@東急電鉄二子玉川駅

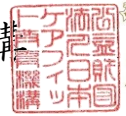
修了証

日本太郎 殿

当法人が定める研修を修了したことを証します

2024年2月22日

公益財団法人
日本ケアフィット共育機構



■オリジナルクリアファイルA 4 サイズ (二つ折り)



www.carefit.org

おもてなしの心と正しい介助技術を身につける
サービス介助士

自分の命を守り、大切な人の命を守る
防災介助士

認知症の人に寄り添う
認知症介助士



公益財団法人
日本ケアフィット共育機構
そっと、さっと、あんしんを。

■スタッフ運営体制

| ポジション | 役割 | 人数 |
|---------------|---|----|
| メイン講師 | 研修全体の講師・運営 | 1名 |
| アシスタント | 研修全体の補助・演習の講師 | 2名 |
| アドバイザー（障害当事者） | メイン講師との掛け合いで実際にあった困りごと等の共有 | 1名 |
| 受付・警備 | 参加者の受付・案内・誘導、参加者アンケート依頼・回収 参加者修了証授与、歩行者の安全確保、警備等 | 3名 |
| ディレクター | イベント全体の運営管理 | 1名 |
| 事務局 | 問合せ対応、申込受付 | 2名 |

※その他、東急電鉄様サービス介助士インストラクター3名の方に午前中のアシスタント参加のご協力をいただいた

■参加者人数

| 時間 | 参加者人数 |
|-------------|-------|
| 10:00～10:50 | 5名 |
| 11:00～11:50 | 11名 |
| 13:00～13:50 | 10名 |
| 14:00～14:50 | 12名 |
| 15:00～15:50 | 12名 |
| 計 | 50名 |

1回：50分／12名定員

当日の天候：雨 最高気温8℃

最大60名定員⇒50名の参加 83%定員充足率

当日雨と寒さで当日キャンセルする方も多かった反面、当日飛込受付参加者もいらっしやった。

■カリキュラム 1回12名／50分

| | 時間 | テーマ | 内容 | 実施項目 |
|---|-----|----------------|--|--|
| 1 | 10分 | オリエンテーション | 講師自己紹介 研修の進め方 シームレスな移動 支援とは 障害の捉え方 | <ul style="list-style-type: none"> ・研修の目的を確認する ・シームレスな移動支援について ・障害の個人（医学）モデルと社会モデルについて ・社会的障壁について ・障害当事者が登壇し、障害当事者が感じている移動における困りごとの共有 |
| 2 | 15分 | 車いす使用者 への接遇 | 車いす使用者とは 車いす操作の基本 | <ul style="list-style-type: none"> ・3チームに分かれて実施 ・概要と社会のバリアについて ・車いす操作のポイント |
| 3 | 15分 | 視覚障害者 への接遇 | 視覚障害とは 手引き（歩行案内） の基本 | <ul style="list-style-type: none"> ・3チームに分かれて実施 ・概要と社会のバリアについて ・コミュニケーションのポイント ・接遇方法（手引き）について |
| 4 | 10分 | 振り返り・まとめ | 質疑応答含む | <ul style="list-style-type: none"> ・シームレスな移動の課題と意義の共有 ・明日への行動宣言 |

無断で引用・転載を固く禁止します。 Copyright(C) The Nippon Care-Fit Education Institute

1. オリエンテーション

・機構インストラクターが担当します。体験の目的や社会の課題等をお話します。アドバイザー（障害当事者）と掛け合いで、移動における困りごとの共有します。

2. 車いす使用者への接遇

- ・機構インストラクターより車いす使用者が直面している社会のバリアについて説明します。
- ・機構インストラクターによる実技デモンストレーションを行います。
- ・演習では、車いすです平台（サービス介助士実技教習で使用している段差）昇降の体験をします。

一連の流れは以下です。①～⑤まで体験して、介助する人・される人の役割を交代します。

- ①目線をあわせて挨拶②足台に足を乗せる③曲がる④段差をのぼる⑤段差からおりる※平台の上で回転はしません。
- ⑥到着後目線をあわせて挨拶（足台から足は自分でおろす）

3. 視覚障害者への接遇

- ・機構インストラクターより視覚障害者が直面している社会のバリアについて説明します。
- ・機構インストラクターによる実技デモンストレーションを行います。
- ・演習では、車いす演習で使用した段差を超えて、椅子へ案内する介助体験をします。

一連の流れは以下です。①～⑤まで体験して、介助する人・される人の役割を交代します。

- ①挨拶・名乗り②手引きの基本姿勢を取る③曲がる④段差昇降⑤椅子への案内

4. 振り返り

機構インストラクターが担当します。

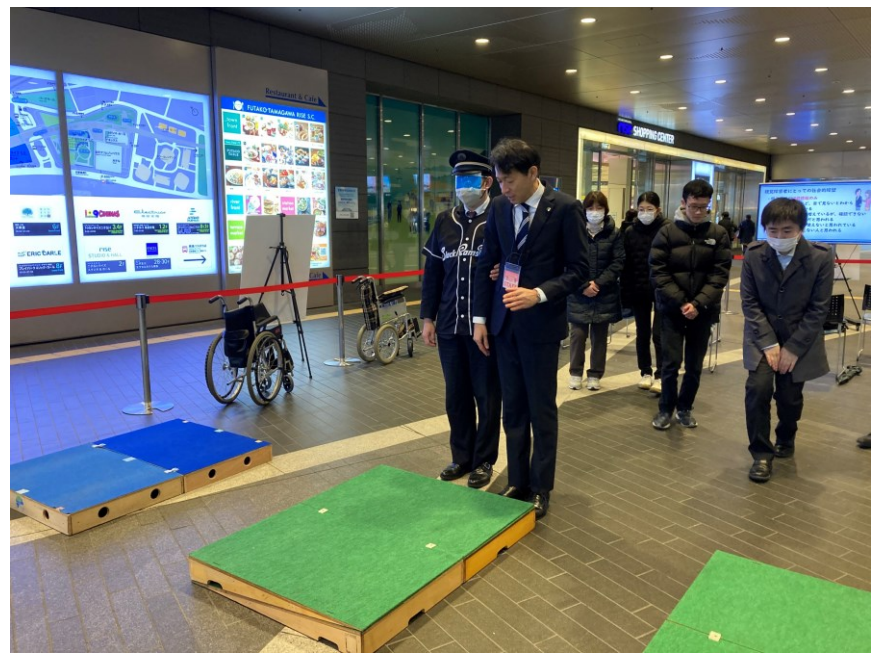
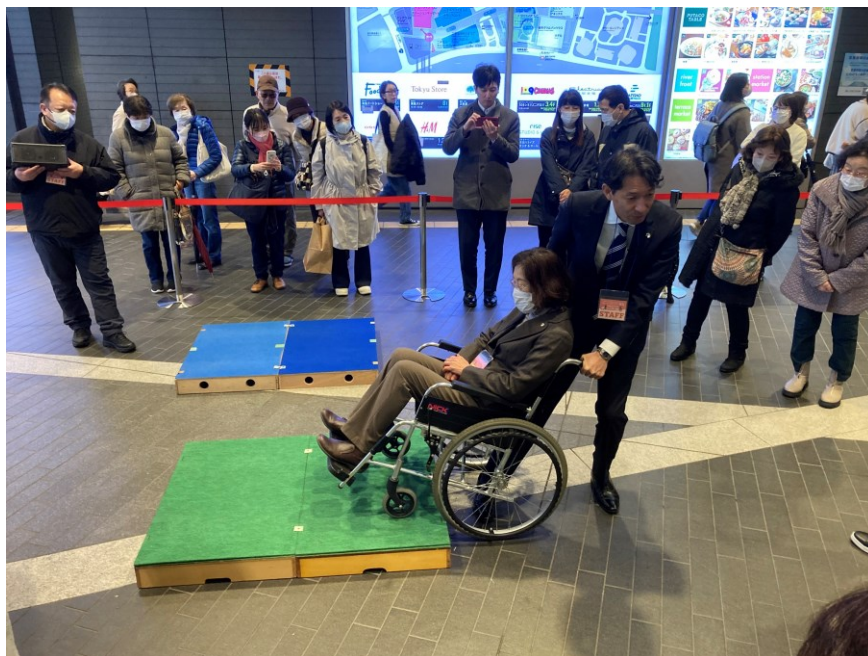
■受付回り、全体風景



■オリエンテーション



■ デモレーション



■車いす使用者への接遇



視覚障害者への接遇

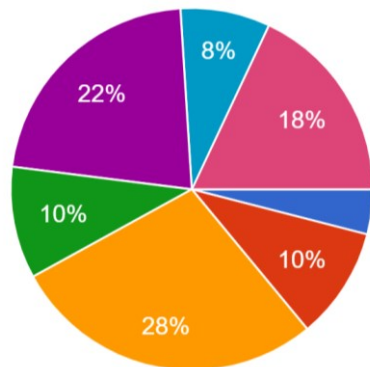


■参加者アンケート結果

1. あなたの年齢について年代でお答えください。

50件の回答

- 10代
- 20代
- 30代
- 40代
- 50代
- 60代
- 70代以上

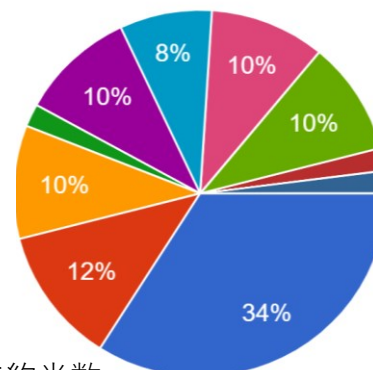


30代～50代が60%

3. あなたの職業について教えてください。

50件の回答

- ①会社員
- ②公務員
- ③自営業
- ④会社役員
- ⑤専業主婦・主夫
- ⑥学生
- ⑦アルバイト/パート
- ⑧無職

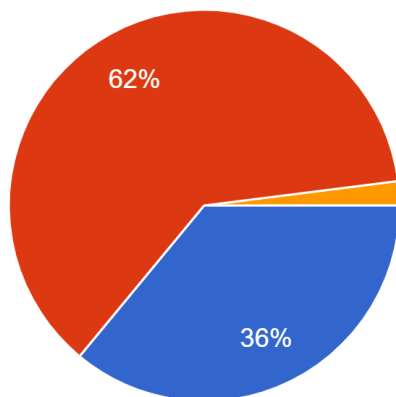


会社員、公務員で約半数

2. あなたの性別について教えてください。

50件の回答

- 男性
- 女性
- 非回答

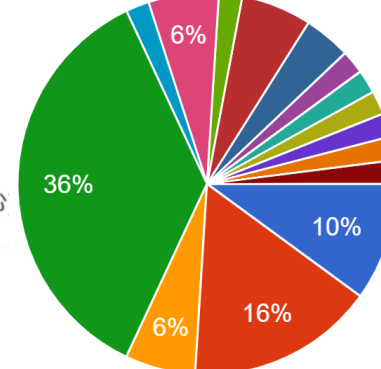


女性が60%以上

4. 心のバリアフリー教室は何で知りましたか？

50件の回答

- ①日本ケアフィット共育機構のホームページ
- ②日本ケアフィット共育機構からのメール
- ③駅掲載のポスター
- ④知人から
- ⑤掲示板
- ⑥民生委員
- ⑦新聞折込
- ⑧ニュース(WEB版含む)

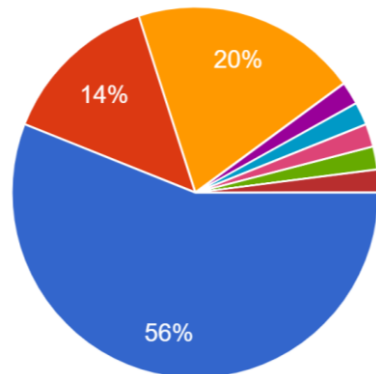


知人からが36%、機構からのメールが16%
機構のホームページが10%

5. 本日参加した理由は何ですか？

50件の回答

- ①興味があったから
- ②社会貢献がしたいから
- ③障害者のお手伝いがしたいから
- ④無料だから
- ⑤誰もが過ごしやすい社会を望んでいるから
- ⑥スキルアップ
- ⑦職場からの紹介
- ⑧社内教育の参考にしたかった
- ⑨インストラクターを目指しているので...

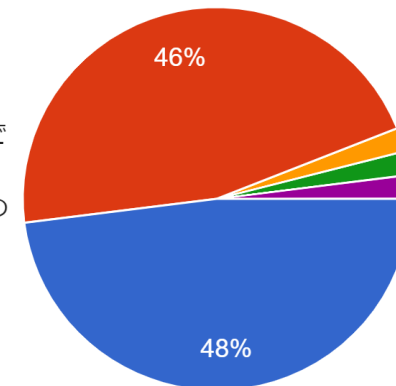


興味があったからが56%、障害者のお手伝いがしたいからが20%、社会貢献がしたいからが14%

7. 街中で障害者の支援をしたことがありますか？

50件の回答

- ある
- ない
- 同級生に視覚障害の子がいるので駅までの誘導のお手伝いをしたことがある。
- 断られることが多いのでうまい声かけのしかたがわからない
- 日常での声かけサポート、仕事、特養、グループホームでの利用者支援



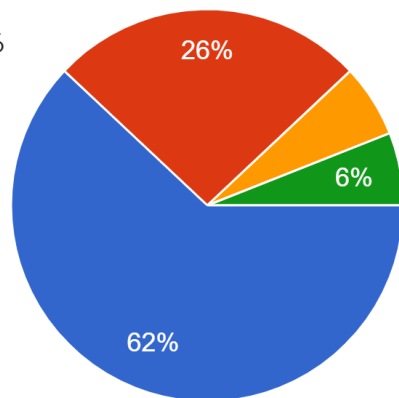
支援したことがあるが48%、ないが46%

6. 障害のある方の移動について困りごとがあることを

50件の回答

知っていましたか？

- ①知っている
- ②どちらかといえば知っている
- ③どちらともいえない
- ④あまり知らない
- ⑤知らない

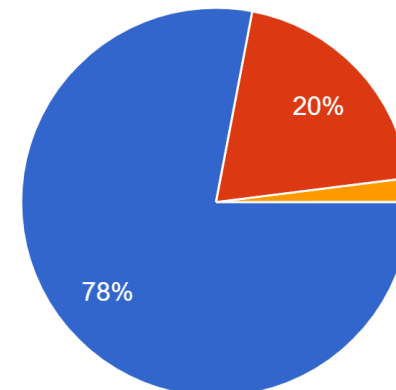


知っている、どちらかというとも知っているが88%

8. 心のバリアフリー教室の内容はいかがでしたか？

50件の回答

- ①非常に満足している
- ②やや満足している
- ③どちらともいえない
- ④あまり満足していない
- ⑤全く満足していない



満足している、どちらかというとも満足しているが98%

その理由として

実際に介助体験ができた

的確な説明で講義がわかりやすかった

介助する介助される両方の体験で、社会的な障壁を身をもって体感できた

短時間で効果的な移動支援の方法を学べた

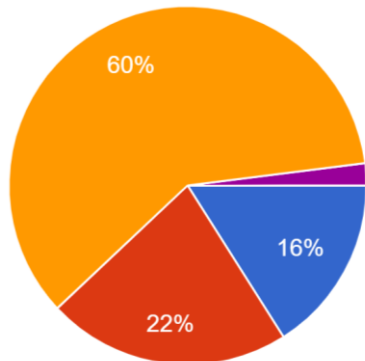
コミュニケーションの大切さが理解できた

障害当事者の話が聞けて良かった

10. 心のバリアフリー教室の所要時間の長さはいかがでしたか？

50件の回答

- ①もっと時間をかけて学びたかった
- ②もう少し学びたかった
- ③ちょうどよかった
- ④少し長かった
- ⑤とても長かった

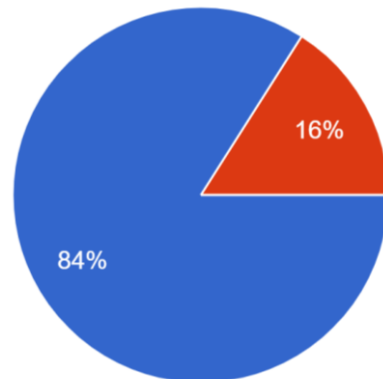


ちょうどよかったが60%、もう少し学びたかったが38%

11. 開催日や時間帯はいかがでしたか？

50件の回答

- ①平日昼の時間帯でよかった
- ②休日昼の時間帯のほうがよかった
- ③平日夕方以降のほうがよかった
- ④休日夕方以降のほうがよかった

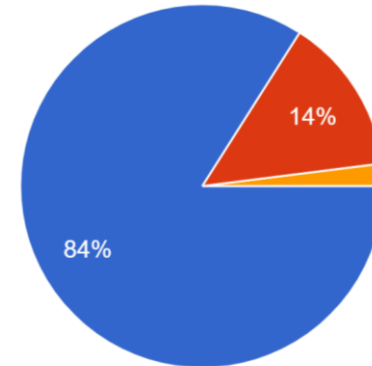


平日昼間でよかったが84%であったが、平日の昼間に来れる人が参加しているので、来れない人の声を聞くと休日の昼間という声も多いのではないかな。

12. 本日の学びが今後役に立つと思いますか？

50件の回答

- ①非常にそう思う
- ②多少そう思う
- ③どちらともいえない
- ④あまりそう思わない
- ⑤全くそう思わない



役立つと思うが98%
その理由として

街中で困っている人を見かけたら、まず声かけてみようと思った。
具体的な声かけの仕方を教えてもらったため
お声がけをする自信に繋がった

声掛けする勇気が出た
介助方法や知識があると行動できることが増える
障害当事者の立場がわかった
今後役に立つ声掛けの仕方や介助方法がよく分かった

14. 心のバリアフリー教室の感想やご要望がございましたらお願いいたします。

もっと深掘りしたり場数を踏める機会が欲しい
一度きりでなく、こういった催しを度々開催してもらえると、復習にもなる
これを機会に何処かでお役に立てることができるといいなと思います
障害者の方について考える良い機会をいただきました
今回の経験を活かして、困りごとを減らす手助けが出来ればと思いました
限られた時間の中でも実際に車椅子や手引きの体験ができて良かったです
当事者のお困り事なども知ることができて良かったです
定期的に開催してほしいです
非常に良い経験ができました
このような機会がよりあるとありがたいです
当事者の方のお話が聞けて良かったです
誰もが行きたいところに行けるような社会の一助になると思った
このような素晴らしいお教室に感謝いたします
またこのような機会をもうけて頂ければ幸いです
ていねいに教えて頂きありがとうございました。勇気を持ってお手伝いします
非常にわかりやすく良かったです

■成果と課題

アンケート結果のとおり、参加者からは大変好評なイベントとなった。
当法人ではサービス介助士資格取得講座をはじめ、合理的配慮や各種介助セミナーを1時間から2日間と幅広くニーズに合わせて日常的に実施している。但し、通常の開催は以下の通りである。

- ①対象者は、どなたでも参加できる間口は広げているが、日常的に介助技術等が必要とされる個人や事業者が大半で、一般の方々は少ない。
- ②開催場所は会議室や店舗内等閉ざされた空間で実施している。

今回の成果は

- ①バリアフリーに興味はあるが、介助に関する学習を経験したことのない大多数と思われる一般市民が参加したこと
- ②駅構内という不特定多数の人たちが通りがかる開かれた空間で実施したので、多数の方々に認知できた。

その反対に今回の課題は

- ①屋根はあが天候も雨で気温も低く、風が吹き抜ける空間なので、参加者から「とにかく寒かった」という声が多かった。開催時期を考えるか、寒さ対策を講じるべきだった。
- ②電源がなく、蓄電池を利用したということもあり、小型の30Wのスピーカーを使用。駅構内ということもあり、音声が吹き抜け聞こえづらかったという声も多かった。大型スピーカーが必要であった。
- ③集客についてかなり苦戦したので、今後は、開催地域の自治体を巻き込み、協力体制をとることにより認知を高め、集客につなげることが必須だと感じた。
- ④心のバリアフリーという言葉が一般に浸透しているかと思いきや、心のバリアフリー教室と介助教室が関連づかないという方がいらした。心のバリアフリーの説明を入れるか、タイトルのイメージを考える必要があった。集客に影響があったのも心のバリアフリーで何をするかイメージつかなかったことも考えられる。

■障害当事者団体への調査

現在以下の障害当事者団の協力の下、障害当事者が鉄道からバスへの乗り換え、鉄道駅から商業施設への移動等を行う際の現状や課題についてアンケート調査を実施中しております。

- ・社会福祉法人日本視覚障害者団体連合
- ・社会福祉法人日本身体障害者団体連合会
- ・全日本盲導犬使用者の会